

平成を振り返ろう！

<平成まるわかり年表>

- 1989年 平成開始
消費税スタート、税率3%
ベルリンの壁崩壊
- 1990年 大学入試センター試験開始
スーパーファミコン発売
- 1991年 ソビエト連邦崩壊
ノルウェーの森が話題に
- 1995年 阪神・淡路大震災
地下鉄サリン事件
- 1997年 臓器移植法成立
映画「タイタニック」が大流行
- 2001年 米同時多発テロ事件
映画「千と千尋の神隠し」が大ヒット
- 2007年 リーマンショック
オバマ氏が米大統領に就任
- 2011年 東日本大震災
なでしこJサッカーW杯優勝
- 2013年 富士山が世界文化遺産に
朝ドラ「あまちゃん」がヒット
- 2016年 熊本地震
オバマ大統領、広島訪問
- 2017年 トランプ氏が米大統領に就任
天皇退位特例法の公布
- 2018年 平昌五輪で羽生結弦選手が二連覇
11年ぶり南北首脳会談

平成の邦画興行収入ランキング！！

平成最後ということで、この時代が生み出した名作をランキング形式で紹介します。2016年までは、邦画興行収入のTOP3はスタジオジブリ作品でしたが、2016年の大ヒット作誕生でランキングに変化が・・・

第3位 ハウルの動く城 (2004年) 196億円

小説『魔法使いハウルと火の悪魔』をベースにした宮崎駿監督作品。魔法使いのハウルに老婆にされてしまった18歳の少女ソフィー。2人の活躍と恋を描いた物語。



第2位 君の名は (2016年) 250.3億円

新海誠監督作品。ある日、夢の中で入れ替わっていることに気づいた青年、瀧と少女、三葉。二人を待ち受ける運命とは・・・。



第1位 千と千尋の神隠し (2001年) 304億円

宮崎駿監督作品。不思議なトンネルをくぐって、神様がいる世界に迷い込んだ少女、千尋が両親を探す中で成長していく物語。



上記3作品は、劇場で見た方も多いのでは?!

～編集後記～

平成最後の「学術メディアセンターだより」いかがでしたか？平成の30年間も、振り返ると色々ありましたね。次号の発行もぜひご期待ください。

学術メディアセンターだより

だんだんと寒くなってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。今回は、順天堂大学国際教養学部に行き、学生にインタビューをしました。また、平成最後の冬号にちなんだ特集もありますので、ぜひ読んでください！！

TOPICS

- 1.国際教養学部について知ろう!!
- 2.平成のベストセラーを紹介
- 3.平成を振り返ろう!

学術メディアセンターだより 6号
通巻 59 巻 2018 年 11 月 (冬号)

順天堂大学医療看護学部
学術メディアセンター運営委員会
〒279-0023
千葉県浦安市高洲 2-5-1
Tel.047-355-3111

国際教養学部について知ろう!!



国際教養学部正門

皆さんは、国際教養学部について知っていますか？同じ大学なのに、何を学んでいるのだろうか？どんな学部なのだろうか？と意外と知らないことだらけだと思います。

そこで今回は、国際教養学部2年生4名の協力のもと、学部内を案内してもらい、インタビューしてきました！同じ大学で学ぶ同志に興味を持つキッカケになったら嬉しいです。



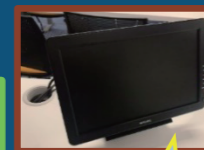
学生ホール



大教室

Q1. なぜこの大学にしたの？

- ・オープンキャンパスで教授に「是非ここにきて欲しい！」と握手をされて、ここしかないと思ったから。
- ・高校生の時から食糧問題について興味を持っていて、将来、国連に入って活動するために、国際系の大学に入りたかったから。
- ・グローバルヘルスに興味があったから。
- ・第二外国語を学べて国際的なことを学べそうだったから。



教室の後ろ側にはモニターが付いていて、後ろでも見えやすくなっていました



小人数教室

小人数教室が多くあり、自習やレポート作成に使っているようです

Q2. 何を学んでいるの？

- ・英語や中国語、スペイン語などの外国語
- ・ファシリテーションと呼ばれる、会議やミーティング時に活用できるリーダースキル育成授業
- ・日本と外国での文化や考え方の違い
- ・戦争や民族に関する授業（アラブや中東、ヨーロッパ、ロシアなど）

外国人の先生も多く、留学にも自由に行きやすいカリキュラムになっている点も魅力的ですね！

Q3. 学部の特徴、自慢は？

- ・留学に行きやすい環境が整っている
- ・医学部の講義を受けることができる
- ・ファッションというディスカッション形式のリーダー育成の授業がある

医学部とキャンパスが近いことによる強みですね！



Q4. オススメの本は？

斎藤 環『承認をめぐる病』日本評論社



精神科医の著者は、若者が「衣食住」よりも「承認」を求める強い欲求を抱えていることを指摘している。皆さんはどうでしょうか？承認欲求に関して、親子関係のトラブルなど身近な例を挙げて説明しているため、興味深く読めるとのこと。表紙が可愛い女の子のイラストなのも素敵ですね！

メンタリスト
DaiGoの
著書



この本をお勧めしてくれた学生は、プロ野球選手の通訳を目指している。通訳に必要なことは、ただ英語などの外国語が話せることだけではなく、通訳の相手がどのような気持ちでその言葉をはしているのかを自身が的確に理解すること。だからこそこの本を読みたいと考えたらしい。メンタリスト DaiGo は、沢山の書を出しているの、皆さんもぜひ読んでください。

Q5. 英語を勉強するコツは？

【初めは絵本から！】

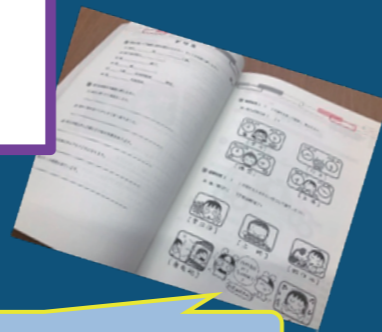
英語だけにとどまらず、外国語を手取り早く学ぶためには、「絵本を読むことが最適」とのこと。上級者になるが、趣味で個人的に洋画の翻訳をする方もいた。「コメディ映画であれば、英語ならではのスラングなどが含まれているため、そのスラングをどう訳すかを考えるのが楽しい」とのこと。

学内には絵本を含むたくさん本やDVDが!! 人体に関する本もありました



Q6. 好きな科目は？

- ・中国語
- ・スペイン語
- ・人権とジェンダー



実際に使っている中国語の教科書



他にも...

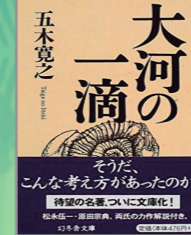
長期休みを利用して1ヶ月に7カ国を一人で旅行する、カンボジアなどの国際ボランティアに参加するなど、国際教養学部生ならではの楽しみを持っている学生もいるようです。看護とは違った視点や勉強があってすごく刺激的でした！みなさんも興味を持って他学部の人と関わってみてください。きっと色々な発見があると思いますよ！

平成のベストセラーを紹介

平成も残りわずかですね…。平成の30年間にはたくさん本が出版されました。今回は、ベストセラーとなった4冊を厳選しました。気になる本があれば、ぜひ手にとってください！

売上部数は約120万部
1998年ベストセラー4位¹⁾

『大河の一滴』 五木 寛之 (幻冬舎)



頑張ることやポジティブに生きることに疲れた人に向けて、「現実はこのなんだと諦めることから始めて出直そう」と説いています。それだけを見るとネガティブな感じもしますが、著者は、自らの壮絶な人生を経て「この世は地獄のようだが、そのことを受け入れて諦めてしまえばほんの少しのことで幸せに感じることができる」と、私たちにこの現実を生きる術を教えてくださいました。また、生と死についての著者の考え方も、看護学生として参考になるとおもいます。

勉強や実習で大変な看護学生には、是非ともこの本をお勧めしたいです。

第26回山本周五郎賞候補
2015年ベストセラー6位³⁾

『母性』 湊 かなえ (新潮社)

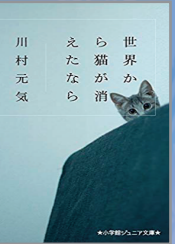


ある家族の母とその娘の心情を中心として、家族の本心や過去の事件の真相へと迫っていく物語。女子高生の娘が自宅の4階から転落したという出来事をきっかけに、この娘と家族が周りの人間を巻き込みながら結末へと向かっていく…。母の考える母性、娘の考える母性、周りにいる人々の考える母性の違いがとても興味深かった反面、とても不気味でした。

子どもにとってどのような母性を持った母親が理想であるのか、「母性」とは何かについて深く考えさせられる話でした。皆さんも、「母性」について考えてみてはいかがでしょうか。

2013年本屋大賞ノミネート
2013年3月ベストセラー5位²⁾

『世界から猫が消えたなら』 川村 元気 (小学館)

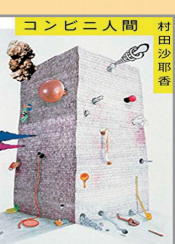


郵便配達員として働く30歳の主人公が、ある日突然、脳腫瘍で余命わずかだと宣告される。絶望的な気分で家に帰ると、自分と全く同じ姿をした男が待っていた。その男は自分を悪魔だと言い、「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは1日だけ命を得る。」という奇妙な取引を持ち掛けてきた。主人公は自分の命と引き換えに、電話、テレビ、映画…次々に世界からモノを消していく。何かを消すとそのモノとの大切な思い出も消えていき、何かを得るためには何かを消さなければいけない。

日常そのものや身近にあるモノの大切さを教えられず。面白くて笑ってしまうのに切ない、そんな1冊です。

第155回(2016年上半期)芥川賞受賞
2016年ベストセラー10位⁴⁾

『コンビニ人間』 村田 沙耶香 (文藝春秋)



主人公の古倉恵子は彼氏なしの36歳、コンビニバイト歴18年。幼少期から、世の中の「普通」に馴染めず、家族や周囲の人からは変わった人と認識されている。そんな彼女は、コンビニ店員をしているときに唯一、世の中に馴染めていると感じ、日々の生活を送っていた。しかし、ある日、コンビニに婚活目的の男性が勤め始め、恵子と周囲との関係が徐々に崩れていく。最初は恵子の考え方に違和感を覚えるかもしれませんが、読み進めるうちに、恵子に感情移入すらしてしまう不思議で面白い体験ができます。最後には私たちの中にある「普通」や「常識」について考えてしまう物語です。

引用文献 1) 日本著者販促センター 1998年ベストセラー30 <http://www.1book.co.jp/001386.html>
2) 日本著者販促センター 2013年3月ベストセラー20 <http://www.1book.co.jp/005050.html>
3) 日本著者販促センター 2015年ベストセラー20 ※トータル調べ <http://www.1book.co.jp/005582.html>
4) 日本著者販促センター 2016年ベストセラー20 ※トータル調べ <http://www.1book.co.jp/005732.html>